

1. 脾胃の病変の治療について

脾胃の病変をを治療するには、その寒熱虚実を見分け、弁証論治したうえで、気液の過不足に注意し、脾胃の昇降機能を回復させることに努めなければならない。脾湿が強ければ燥湿芳化し、胃津が虚せば養陰滋液しなければならない。また脾は上昇させ、胃は降下させ、脾は温めることによって運化を促し、胃は涼法によって潤し、実すれば陽明を瀉し、虚せば太陰を補うというのが脾胃治療の原則である。治療法および処方はこの点に配慮しなければならない。

2. 胃は受納を担当し、脾は運化を担当し、互いに協力しあっている。そのため、とちらかに病変が発生したときには、もう一方にも害が及んでしまう。したがって実際に脾胃の病変が起きたときには、水穀の受納・運化・配布機能の全てに渡って影響が現れる。

3. 肝気横逆について

肝気横逆は情志刺激によって誘発されることが多く、その病理の実態は気機の逆乱である。その症状は主に肝経自体の経気が逆乱する場合と、横逆し土を侮る場合とがある。肝経自体に疾患が現れる場合は、肝気の条達機能が失われ、気機が鬱滞し経脈の流れを阻むので、感情の高ぶり・いらいらする・怒りっぽいなどの症状が見られる他に、両脇と少腹の脹痛が強く現れることが多い。

肝気横逆の場合は、胃を犯して胃の和降機能が失調するので、受納分解機能が打撃を受け、肝胃不和となって胃もたれ・胃痛・げっぷ・胃酸過多などの症状や、胃気上逆のための悪心・嘔吐などの症状が現れる。また肝気横逆して脾を侮れば、肝脾不和となって腹脹・腹痛・下痢・便秘などの症状が現れる。

●泄瀉の病因病機（鍼灸学〔臨床編〕より）

急性	外感湿邪	邪気と積滞	脾・胃・腸の運化 伝導機能の失調	清濁不分 →水穀混雑 して下る	泄瀉
	飲食不節				
慢性	肝脾不調	腐熟機能の低下			
	脾胃虚弱				
	腎陽虚				

●泄瀉の治法と選穴（鍼灸学〔臨床編〕より）

証候	病因病機		治法	選穴	
泄瀉	急性	寒湿	散寒化湿	中脘 天枢	上巨虚, 陰陵泉
		湿熱	清熱化湿		上巨虚, 陰陵泉, 合谷, 曲池, 委中
		食滞	消食導滯		公孫, 足三里, 脾俞, 胃俞, 大腸俞
	慢性	肝脾不調	疏肝健脾	中脘 天枢 足三里	太衝, 陽陵泉
		脾胃虚弱	健脾益氣		脾俞, 章門
		腎陽虚	温腎健脾		脾俞, 章門, 命門, 関元